

Title	中国研究集刊 黄号（第4号） 編輯後記/奥付
Author(s)	
Citation	中国研究集刊. 1987, 4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61170
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編輯後記

*執筆者紹介。笠川直樹氏は私立精華高等学校（京都市）教諭、浅野裕一氏は島根大学助教、ジョンメイカムは大阪大学大学院研究生（中国哲学講座）、柴田清継氏は高松工業高等専門学校助教、河田佛一氏は関西大学教授である。

*笠川氏の論考は、本誌「地号」所載の大川俊隆氏撰「文字発展過程における偏旁添加字の位置」に対する批判である。笠川氏も述べるように、大川・笠川両氏は友人であり共同研究者である。学問的論争が交わされること、これは編輯責任者の私にとって嬉しいことである。

*柴田氏の論考は、文学の領域である。本誌は中国哲学研究室の編輯ではあるけれども、けっしていわゆる「中国哲学」の専門誌ではない。「中国研究集刊」という誌名が示すように、中国に関する研究成果の発表場所として全世界に開放されている。広く御寄稿を待望申しあげる。

*森三樹三郎先生が逝去された。受業生の追憶文を本号に収め、もって本研究室として深く哀悼の意を表し、御冥福を祈念申しあげる。なお、『仏教大学学報』第三十六号（一九八六年十月刊）に、池見澄隆・仏教大学教授の追悼文「森三樹三郎先生をしのぶ」がある。

*森先生の御葬儀後、昭和六十一年九月十一日、美佐尾未亡人が大阪大学を来訪され、当津武彦・文学部長の会葬・代表焼香ならびに諸手配に対して謝意を表された。その後、本研究室

に來られ、大阪大学中国学会に金一封を寄附された。御芳志に感謝し、ありがたくお預りしている。

*右の大阪大学中国学会は、昭和五十九年に設立、現在に至っている。目下は本誌の刊行など内部充実に力を入れているが、いずれ外部展開を図りたいと思っている。

*去年五月に病逝された田中利明氏（本研究室大学院出身）を偲んで、本年三月、大阪教育大学国語国文学研究室から『悼田中利明教授』（一〇八頁）が刊行され、また同研究室機関誌『学大図文』（第三〇号）は、「田中利明教授追悼号」として特集されている。その献呈論文の一篇として、西川陽子撰「劉向『列女伝』における外戚観」が録されている。西川氏は田中氏の受業生であり、後に大阪大学大学院（本研究室）に進学された。大阪教育大学国語国文学研究室が、故田中利明氏のために、上記二部の追悼記念誌を御刊行下さった暖いお気持ちに対して、深甚の感謝を申しあげる。

*去年九月、助手の湯浅邦弘は北海道教育大学釧路分校へ飛び立った。そして今年四月、後任助手の滝野邦雄は和歌山大学経済学部へ、院生の竹田健二は弓削商船高等専門学校へと飛び立つ。現任助手の佐藤一好が飛ぶ日もいつか来るであろう。これら若い飛行機は、私の苛酷な要求に応えて努力したわけであるが、彼らの努力以外、周囲の多くの方々のなみなみならぬ、そしてさまざまな御尽力・御協力があった。その暖い御援助に対して、熱い心で深く感謝申しあげる。

（加地伸行）

中国研究集刊

黄号（1987年4月1日発行）

編輯・発行

大阪大学文学部中国哲学研究室

加地伸行

郵便振替口座番号

大阪6—34413 中国研究集刊

印刷・タカラ写真製版社